



# 瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部

東京都世田谷区瀬田 4-16-1 Tel 03-3708-0222

主日のミサ／午前7時、午前9時半



## 800年前の実話

マリオ・カンドウッチ 神父

小さき兄弟会の総長であるマイケル・ペリーから日本へ、スルタン・アル＝マリク・アル＝カーミルと出会った聖フランシスコの対談800周年祭についての手紙が送られてきました。が、この国では強い関心を寄せられていないようです。他の宗教との対話のために進んで活動しているフランシスコ教皇のように、瀬田教会の皆さんにもぜひ、このことを考えて頂ければ幸いです。

### 武装よりも対話が強い

今年の復活祭（4月21日）に、スリランカで恐ろしいテロ事件に1000人ほどの人が巻き込まれ、250人以上の死者が出ました。監視カメラに写っていた犯人の姿から、シリア等で訓練を受けたキリスト教を標的とする特別ゲリラグループの仕業であることが断定されています。地元の回教徒とキリスト教の信徒はいつものように暮らしているときの出来事でした。

1986年、ローマ教皇ヨハネ・パウロ二世の呼びかけにより各国の諸宗教家がイタリア・アッシジに集まり、平和のために祈る「世界平和祈願の日の集い」が開催されました。これは「アッシジの風」「平和の道」とも呼ばれ、現在も毎年アッシジだけでなく、日本でも開催されています。

しかしその後、カトリック教会では様々な問題のために行き詰まりが生じ、時の教皇ベネディクト16世は、より時代にふさわしい教皇が選出されることを祈るよう、全教会に呼びかけました。ご存知のように間もなく、ヨーロッパ以外からは1272年ぶり、中南米出身の史上初かつ初めてのイエズス会会員のローマ教皇が誕生します。教皇フランシスコことホルヘ・マリオ・ベルゴリオは、アルゼンチンのブエノスアイレス出身。イタリア系移民の血筋です。選出当時の年齢は七六歳。2013年3月、新教皇を選出するコンクラーヴェの席で不安な様子のベルゴリオ大司教に、隣に座っていた友人であるフランシスコ会会員、ブラジル・サンパウロ教区のフネルム司教が声をかけました。「心配することはない、神さまの業です。ただ、貧しい人を忘れないで」。その言葉を受けた彼は、深い平和に包まれ、アッシジのフランシスコが脳裏に浮かび、その名を選ぶことにしたと、就任後初のインタビューで語っていました。

教皇フランシスコは、同名の聖人に倣い、多くの人々との対話の中で、心の壁を溶かし、平和の道を絶えず歩んでいます。今年、2月3日から5日まで、アラブ首長国連邦（UAE）へ、初めての訪問を果たしました。ヴァチカンに戻った彼は翌週の9日、フランシスコ会総長マイケル・ペリーにこの訪問の成功に当たって感謝の手紙を送りました。「フランシスコ会が800年にわたって聖地であるエジプトからイラクまでの地域で、ムスリムの兄弟達と仲良く暮らし、福音宣教を無理強いすることもなく、ムスリム共同体との友情を深めてこられたおかげです。」

3月1日から3日まで、エジプトのダミエッタとカイロにて、フランシスコ会聖家族管区主催による聖フランシスコとスルタン・アル＝マリク・アル＝カーミルの対談800周年祭が祝われました。

教皇の代理として参列した枢機卿レオナルド・サントリに、教皇から「『平和の人』聖フランシスコに倣うように、そして、『主があなたに平和を下されるように』という挨拶をすべての人と交わすように」という内容の手紙が手渡されたようです。

また、3月31日には、教皇フランシスコ自らが西アフリカのムスリム国であるモロッコを訪問し、アラブ首長国連邦の時と同様、あたたかい歓迎を受けました。この新教皇がムスリムの人々を尊重し、真の兄弟のように思っている姿勢が、彼らに受け入れられたことを象徴する出来事と言えるでしょう。

さて、ここで、800年前の教会の歴史を見てみましょう。教皇イノセント三世を継いだホノリウス3世は、第五回十字軍を結成。自身の代理として、スペイン人のペラッジョ枢機卿を送ります。一方、アッシジで毎年行われていた全兄弟会の総会で聖フランシスコは、「福音宣教をキリスト教信者だけでなく、すべての人に伝えるべき」と考え、1217年にエリヤを代表とする初めての使節団を聖地へ送ることにしました。最初の海外管区の誕生です。そして1219年、フランシスコ自身がイルミナート兄弟と共に、兄弟訪問と福音宣教を兼ねて、イタリアのアンコーナ港からエジプトのダミエッタ港へ向かいました。そこでは、二つの軍隊が膠着状態で睨み合っているところでした。劣悪な衛生状態で、食料が不足しているにもかかわらず、スルタンが提案した和平を枢機卿が断っていました。見かねたフランシスコは、和平交渉のためにスルタンのもとへ出向く許可を願いましたが、殺される可能性があるために却下されてしまいます。しかし、質素な身なりで武器も持たずに行くから心配は要らないと枢機卿を説得し、フランシスコは兄弟とともにムスリム軍の中へと入って行きました。

この出来事は、溢れるほどの資料に書き残されています。初めこそ緊張が走ったものの、たちまち打ち解け、スルタンとフランシスコは数日にわたり、とても良い雰囲気の中で対談を行うに至りました。友情の絆が結ばれ、スルタンはフランシスコとその兄弟達に、聖地での旅と居住の自由を約束しました。平和の使者フランシスコによる、勇気ある対談のおかげで、今日まで、フランシスコ会が聖地を守ることができるようになりました。

最後に、教皇フランシスコが第52回世界平和の日「2019年1月1日」に発表したメッセージを紹介いたします。

「平和は、人々が責任を担い合い、支え合うことに基づく政治の偉大な計画の裏に他なりません。しかしそれは、日々、取り組むべき挑戦でもあります。平和は心と魂の回心であり、心と共同体におけるこの平和には、切り離すことのできない三つの側面があることは容易に理解できます。

●自分自身との平和。聖フランシスコ・サレジオの勧めに従って、頑固さ、怒り、忍耐力の無さを克服してください。そして、「他者に少し優しく」するために、「自分自身に少し優しく」してください。

●他者との平和。家族、友人、見知らぬ人、貧しい人、苦しんでいる人……、彼らと物怖じせずに出会い、その言葉に耳を傾けてください。

●被造物との平和。神のたまもの偉大さを再発見し、わたしたち一人ひとり地球の住人、市民、未来の担い手として、責任を共有していることを再認識してください。

人間の弱さを熟知し、それに対処できる平和な政治は、救い主の母、平和の元后であるマリアが、すべての人間の名の下に歌った賛歌（マニフィカト）の心にいつでも立ち返ることができます。」